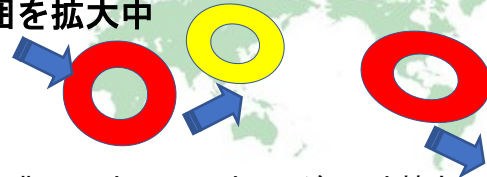


# 「ツマジロクサヨトウ」に注意

飼料用とうもろこしに発生中

- ・南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアまで発生範囲を拡大中
- ・アフリカでは、とうもろこしに甚大な被害
- ・日本では本年7月に、九州・沖縄で初めて発生を確認



南北アメリカ→アフリカ→アジアへと拡大

- ・飼料用とうもろこしで多く発生しており、被害の拡大による畜産経営への影響が懸念されます

## ツマジロクサヨトウの特徴

飛翔距離が長い、繁殖力が強い



- ・気流に乗って長距離移動する
- ・1回の産卵数は150～200個
- ・生涯産卵数は最大1000個



- ・幼虫が葉、茎、子実を食害

幼虫の食害による被害

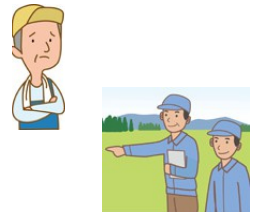


多発すると被害が大きくなるおそれ！！

早期発見・早期防除が不可欠



農薬散布による防除



被害の拡大防止のため、

- ✓ 飼料用とうもろこしのほ場を確認し、疑わしい害虫を発見した場合は、速やかに問合せ先までご連絡ください
- ✓ 発生が確認されている地域(※)では、農薬の散布、早期の刈取を検討してください
- ✓ 地面に落ちている幼虫やさなぎを死滅させるため、次期作の有無にかかわらず、刈り取り後は、速やかに、深耕すき込み(目安は12cm以上)してください



早期の収穫



収穫後は速やかにすき込み

(※)ツマジロクサヨトウに関する情報はこちらで確認  
[http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k\\_kokunai/tumajiro.html](http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html)



○問合せ先

茨城県県西農林事務所 経営・普及部門 経営課  
 電話:0296-24-9206

トウモロコシ、イネ、サトウキビ、サツマイモ、野菜類を食害する「ツマジロクサヨトウ」と思われたらご連絡ください。



### 特徴

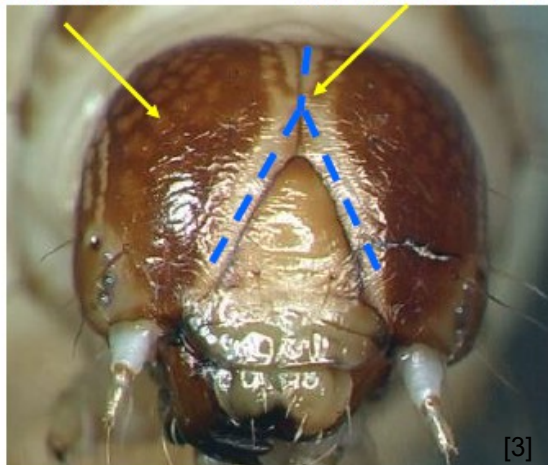
●幼虫は大きくなると体長約 4 cm, 体色は左の写真のように変化があります。

●頭部には網目模様があって「逆Y字」に見えます。

●若齢幼虫は区別できない場合があります。

網目模様

淡色部は逆Y字状



被害の状況



幼虫の寄生



[1]~[5] は植物防疫所原図

**ツマジロクサヨトウに対しては  
以下の農薬を使用して防除を行ってください。**

以下に記載した農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。

また、使用にあたっては購入した農薬の適作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○飼料用とうもろこし

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BT水和剤(14459)	散布	発生初期 但し収穫前日まで	100～300L/10a	1000倍	—
BT水和剤(19885, 20653, 21944)	散布	発生初期但し、収穫前日まで	100～300L/10a	2000倍	—
カルタップ水溶剤	散布	収穫21日前まで	100～300L/10a	1000倍	2回以内
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫90日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
MEP乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2000倍	2回以内

○ソルガム(飼料用)

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
アセタミプリド水溶剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	6000倍	3回以内
アセフェート水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	3回以内

(注)BT水和剤に記載している( )内数字は登録番号。